

矢中新聞

令和八年度入学式・始業式
式辞より

輝く矢中生六八〇名の 飛躍を祈念して

草木が芽吹く時期を迎え、春の息吹を感じる季節となりました。本日ここに、二二二名の新入生を迎え、全校生徒六八〇名で令和八年度が幕を開けました。さて、新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

今日を迎えるにあたり、中学校に進学できる喜びや大きな期待を胸に門をくぐったことでしょう。一方で、不安と緊張もある



ったことと察します。でも、安心してください。初めてのことは分からないのは当然です。もしも分からないことや困ったことがあれば、矢中の先生方や先輩達が優しく教えてくれることでしょう。

矢作中学校や矢中生の姿を現しているものとして、「校訓」と「校歌」が挙げられます。

校訓には、「苦痛を避けず」と他校ではあまり見かけない言葉があります。矢中生には、努力を惜しまず高い壁を乗り越えて、より高い価値や輝かしい成果を得ようとする素晴らしい心構えが見受けられます。

また校歌には、「師とともに」という言葉が一番から三番まで入っています。生徒と教師が、どんなときも共に汗を流し、同じ歩みを進めることで、喜びや感動を一緒に味わう姿を表しています。このフレーズこそ、生徒や教師にとってかけがえのない中学校三年間を創り上げるこののできる姿であると考えています。

新入生の皆さんにも、校訓や校歌のような姿や志を見せてくれることを心から期待しています。

また新たな学年へと進級された二・三年生の皆さん、進級お

めてありがとうございます。

気持ちも新たに、今日の日を迎えたことでしょう。新しい学年に進級すれば、それぞれ目指す姿も違ってきます。更なる高みを目指すことになりませんが、自らの目標に向かって努力する過程においては、上手くいかなくて悩んだり、どうしていいかわからず困ったりすることもあってもいいかもしれません。しかし、一歩ずついいので、自分のペースでいいので、常に挑戦する心を忘れず、折れない強い心をもって、前へ前へと進んでほしいと願っています。そして、二二二名の新入生にとって、憧れの先輩として力を発揮してください。

結びとなりますが、保護者の皆様方、本校職員は、矢中生一



一人に確かな光を当て、生徒のことを中心に据えた魅力ある学校づくりに努めてまいります。生徒、家庭や地域、学校が一体となった教育活動が展開できますよう、「矢中の教育」にご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、今日という素晴らしい出会いを大切に、全校の皆さんが夢と希望を胸に抱き、大きく飛躍することを祈念し式辞といたします。

令和八年四月九日
岡崎市立矢作中学校長

浅井 貞人



